手塚治虫 漫画全集

# どろろ

4

どろろの父が財宝をかくした場所が発見された、が……!? 百鬼丸は、父、醍醐景光にとりついた四十八の魔物と最後の対決をすべく醍醐領に向かった! だが、その前に数々の妖怪が立ちふさがる! 異色時代劇、完結編。

〈装幀/鶴本正三〉

手塚治虫漫画全集　150

# どろろ　4

## DORORO (IV)

Dororo, who was being pursued by a shark, is saved by Hyakimaru. Dororo goes to Mujo Cape in search of the treasures which his father Hibukuro is said to have buried. However, the cape was nowhere to be seen and the robber Itachi and the official of the magistrate's office who had come in search of the treasures stab each other to death.

Hyakimaru returns to Daigo Village in order to see his father. There in the village were countless numbers of hobgoblins who had signed a contract with Kagemitsu.

The enemy general's horse Midoro kills the general because her foal had been killed by the latter. Midoro is possessed by the hobgoglins. Because of severe taxation, Domburi Choja eats extravagant food in secret. He becomes possessed with the spirit of a turtle who had become so big that he could not move in the lake.

The priest learns that Kagemitsu is planning to construct a fortress. He is against the plan so is buried alive by Kagemitsu. But the priest is reborn together with the spirits of field mice and otter.

Hyakimaru annihilates the hobgoblins and the farmers who could not withstand the oppressive rule of the lord Kagemitsu, rise in revolt and Kagemitsu is thrown out of his office.

Hyakimaru tells Dororo: "although you are a girl, you had been brought up as a boy so that you can fight against oppression. But since are now grown up, you must behave like a girl." After these words, Hyakimaru goes on a journey again. No one knows where Hyakimaru went.

The Hell's Hall in which was located the 48 sculptures was destroy in a war 50 years later. (Work of 1969. Produced in TV series in 1969).

# しらぬいの巻

目次

いきなり おどかすなよ 旅の者だよ

だまれこぞうめ!! ここいらに 野盗の群れが はいりこんだと聞いて 警邏していたんだ 素姓と名をいえ!!

百鬼丸…… 住所不定

とっとと もどれ!! ここから先へ いってはならん!!

ところが おれはどうしても 先へいかなけりゃならないんでね

こいつ…… なまいきな… …われわれの 命令が聞けんのか!!

おれは 命令とやらに 従うのが きらいでね

それより どろろって 子どもを 見なかったかい

どろろ!!

たわごとを ぬかすな!! もどらぬと これを どてっぱらへ つっこむぞ!!

ヒュウウウ

話変わって……

ウウウウ

百鬼丸は……

やい!! どこへいく!?

へんなやつだな

う…う…うわァ

ヒーッ

ふん

キッ

どろろ
どこにいる!?
おれがこんなに
さがしている
のに……

おれがあのとき
草の上にのびている間に
野盗のやつらがどろろを
さらっていったんだ!

………

?
ピ…ッ!
ピ…ッ
ピ…ッ
ピ…ッ
ポロリ
ピ…ッ!!
ピ。。ー!

いつだったかびわ法師のおっさんがいったっけなあ……

世の中にシアワセなんてありゃしねえってな……

だが

この水のはてにこの空の下におれのさがすシアワセの国が……

なんだかあるような気がする…きっとあるに決まってる！

ところでどろろはどうしてるだろうな

生きてるだろうなあ…

どろろ……おまえどこにいるんだい？

フ……フ……おかしなもんだなあはじめのうちはおにもつだと思っていたのに……

このごろおれはどろろなしの旅がこんなにさみしいとやっとわかってきたんだ……

どろろーッ！

海は
いいな

いままでのおれは ただ
なんとなくすばらしいと
感じるだけだったが

目や鼻がほんものになって
見る海の景色は
感じる以上にすばらしい

岩のぼりといくか

よいしょ

よいしょ

岩のぼりは二本足でないと無理かと思っていたけど一本でもけっこううまくいくもんだな

こりゃすこし風が強すぎるな

おう〜い
どろろ〜〜っ
おれはさみしいぞ〜〜〜っ

むっ

おれの頭の中に遠くから　どろろが呼びかけているような気がしたぞ

あっちの方向だっ

どろろ!!

たしかにどろろがいるこの海の上だ舟にのっているらしい

野盗どももいっしょだな?

よしっいってやるぞおまえが助けをもとめていることがはっきりわかるんだ!

どろろ!
いよー ああ あにきー バーッ…
何が バーッだ 何をして いるんだ?
あれは!?
どろろーっ あぶない!! そいつは妖怪だっ

ゴーウウウ
ウオウウ
ゴオーオ
あっ
ズルッ
ビューッ
あ…に…き〜
どろろーっ
どろろじゃ
ないか!!
あにきー…っ!

それー
からだを
ぶっつけて
舟をぶっ
つぶせ!!

えーい

うっ!!

待て!!

よくも三郎丸を殺したな!!

二郎丸がなきさまたちを一度に腹の中へ送りこんでやるとよ!!

二郎丸!! どうした?
いけねえ
べつの敵か

はなせーっ
はなすもんか!! おいらは陸のダニだ!!
やいやいサメ公!! よく聞けよ おまえが舟をひっくり返す気なら………
おいらはこいつの首にかぶりつくぞ!!
おっとっとっと おいらを食おうってのかい? おいらを食う気なら こいつも道づれだい!!
どんなもんだ 手も足も出ないだろう
もちろんサメに手も足もないけどな
ひっぺがすぞ
ど…どんなにもがいたって は はなれやしねえぞ

こい…きさまのようなやつを　おれはさがし歩いてるんだ!!
どうした!?かかってこないのか!?早くこいっ
なんだ…逃げたのか
じ二郎丸!!
おれを捨ててなぜ逃げるんだい
二郎丸ーっ
ガクリ
こいつめ!!サメがいなくなったらきゅうにガックリとなっちまったぜ

も一度くるか……

こい…さあこいっきさまとてサメの形をしているが…

そのからだの中に魔物が巣くっているのだろう…おれにはわかるぞ!!

ハア
ハア
ハア
ハア

そこにダイコンみたいにゴロゴロ並んだやつらはなんだ!!

どっかで見た顔だな

また会ったなこぞう!! イタチといえば思いだしたか!!

わかったぞ どろろをさらおうとして おれとへんな武器でわたりあった野盗だな!!

こいっ

ま 待ってくれ!!

戦うどころじゃねえよう

おれたちはもう精も根もつきはててるんだ!! それに 刀もみんななくしちゃったし

まあ 仲よくしようぜ

みんな命拾いしたことでも祝おうじゃないか!!

な 百鬼丸

きのうの敵はきょうの友ってことさ……

どろろー!!

あにき!!

おまえってやつはなんて　むてっぽうなんだ!!　バカ!!

へへーエ
あにき　足は?
一本どうしちゃったの?
サメに食われたのかい?

あれ?
あの名刀もなくなってら

サメの目玉へつきさしてやったんだ

もったいねえやな
いいよ　今度サメに会ったらひっこ抜いておいらがもらうぜ!!

いかん!!
あのサメに手をだすな

あいつは妖怪だ!!
サメのからだを借りてるが正体は妖怪だ
おれがしとめる

やーだよう

サメがこわくってカマボコが食えるかってんだい

くそっ
………
………

そうはいかねえぜ

二郎丸はきっともどってくる……
おまえたちをひとり残らず食いにくるぞ

何かたべられるものはないかなー
貝ばっかりだな
おほッタコがいたぞ
ギュー
いてーっこんちくしょう!!
アチーッ
に逃がすもんか!!
フガ…く…く苦しい…い
ウグ!!
どろろのやつがタコをとったぞ
そいつあえらいな

フフ…命拾いか…まあ見ていろよ
だれかそこらのかわいた木ぎれを集めろ!!
まずたき火だい
まあ火だけはできてよかった
ところではらがへったなあ
何か食うものをとってこい!!
しらぬいたき火へもどれよ
よけいなお世話だ!!
いうことを聞かないと斬り捨てて海へつき落とすぞ
もどれ
………

それいらい……な……人間のからだなんておそまつな　つまらねえもんだとわかったんだサメのかっこよさにくらべりゃ……よ……

おらあ…サメになりてえ…なれねえなら二郎丸にせめて……一生をかけたいんだ

おい　そこの風来坊やろう!!

おまえみたいに魔ものにとられて　ないとこだらけのからだをひきずって旅なんかしてるやつの気が知れねえや

そんなにまでして生きていてえのかよ!!

ああ……生きていたい!!

ちぇっ　ばかみたいだな

おれは…ばかみたいだとは思わないがね

おまえなんかサメのえさになったほうがいいぜ!!

そのほうがサメにとってえさになるだけ得だからな

スッ

どろろ タコを 見せろよ
えらい えらい
チェッ!!
なあんだい
おまえ なんにも たべないの かい？
かまうな!! そんなやつ…… そいつは 妖怪の かたわれだ
…… …… ……
なあ おまえ どうしてあんな サメと仲よし なんだよ？
おれは 二郎丸が 好きなんだ
ああ そうとも 世の中で二郎丸と 三郎丸ほど 好きな やつはいねえ……
おとうちゃんや おっかちゃんより かい？
おれのとっつァまと おっかさんはな おれがよちよちのころ いくさで あっさり 殺されちまったんだ……
おれは おっかさんが 首から血をだす ところから 死んでひからびて ミイラになっちまう とこまで ずーっと 見てたんだぜ……

ヒャア うめえや
ちょっと しおっぽい なあ
かまう もんか 海水より ましだ!!
どうした んだ 水をのみに いったきり 帰って こないぞ
ばかに 長い です なあ
おいら 見てくるよ ついでに のんで くらあ
あれ? ひとりも いないぞ
おーい

おこったのかい…斬れよ!!
おれを斬りたいんだろう?
斬るのはサメのほうだ!!
ハァ ハァ
水がのみてえよ もう のどがヒリヒリしてひんむけそうだよ
そういえば………
おれもかわいたよう
あっしも
水のわいてるとこを教えてやろうか
ど……
どこだ!!
たのむ!!
教えろ!! こぞう!!
それーっ
北の浜ぞいの三角岩のところだ
おーい!! ここだよ あったぞ あったぞ
ありがたい!!

よし あにきに 心の中で 知らせよう

百鬼丸のあにき 百鬼丸のあにき!! こちらどろろ 応答どうぞ

どろろ!! どうした?

あの サメが いるよ

北の浜の 三角岩のとこさ 野盗たち みんな 食われちまってるよ

おい どこへ いく?

どこへ いこうと 大きなお世話だよ

あっ
手がっ
……

ギョッ
こっちには
胴体が……

そうか
水の中に
何か
いて……
みんな
食われちゃったんだな

さては……
あのサメが……

あの岩かげだな

どろろ!! バカなまねをやったな
サメの目にささった刀をひっこ抜いてやがる
そんなにその刀がほしいのか!!
どけっ どろろ!!
おまえの手にはおえん おれにまかせろというのだ
この刀をとってからだい
ウヒャアホ……
こいつ……陸へあがってきたぞ!!

そっちへ
いくなっ

いくと
おれが許さ
ねえぞ

なぜ
そう
気にする？

えっ
なぜだ？

…………む

キャッ!!

どろろーっ!!

どろろーっ!!

あっ!!

ザバーッ!

ヤッ
ハーイ!!

ウーム
これはどうだ!!
なんだか
よっぱらった
ような
気分になって
きやがった…

あにき!!
ど　どうし
たんだよ!?

こりゃあ
酒のにおい
だ!!

このサメめ……食ったものを
腹のなかで発酵させて　吹きだすんだな
酒のガスにして
……とんでもないやつだ
……

くそっ……
フラフラして
頭が
ボンヤリして
きた

も　もう
立っていられ
ない……
よっぱらって
しまって
……

あぶない!!
倒れないで!!

右だよ
右へ
まわってっ

かんねん
しておれに
立ちむかお
うってのか!!

それとも
さかなのくせに
血まよって
陸でも戦えると
思いこんだ
のか？

シャッ…

ふん…こいつは
化けものづらだ
その目つきは
妖怪特有の
三白眼だ

何か
へんな妖気を
はきだしたな

あまったるい
ような　なま
ぐさいような…

うう
……

オーッ
ズルズル
ズル
サッ

そうか…さかなの片方の目はつぶれていて片方しか見えない

右がつぶれているから右からまわって攻撃すればいいのか

ザーーッ

ピョーーン

ピョーン

えいーっ三枚におろすぞっ

ゴロリ

ピョーー

やぁーあーぁ
グアーッ

あっ しらぬいの やろうっ
おいらの 刀だぞ どろぼう!!
あ… おいらも どろぼう だっけ…

苦しかった ろうな…… かわいそうに…… か かわいそうに
二郎丸!! かたきを とって やるぜ!!
二郎丸さえ 生きていれば おれはほかに 何もいらな かった

こい!! 海辺で 勝負だ!!
人間ザメの腕を たっぷり見せて やる!!
よせ サメがいない いまになって おまえに 何ができる?
うるさいっ いくぜっ
聞きわけの わるい やつだ
やめろ!!

# 無情岬の巻

おれの負けだ　おれはもう死ぬ…　百鬼丸……　おれの最後のたのみを聞いてくれ

おれのからだと二郎丸のからだをいっしょに結んで海へ…流し…て…くれ…た…の…む…

死んだ……

いったとおりにしてやろう

……　……

海の底までいっしょに沈んでいっしょに消えていくんだ……　あいつにとってもあれで満足だろうな……

……　……

いやーん いやだ!! 死んだって ぬがねえぞ!!
いうことを 聞かねえか!!
ぬげっ!!
かってに しやがれ!!
はっ
……
どろろ…… おまえって やつは……
そうだったのか…
なぜ…おやじの火袋(ひぶくろ)は…おまえを男の子として育てたのかな?
おいらは男の子だい!! 何がおかしいんだい!!
よし よし おまえは男の子だよ
図面をうつしやした
どうするどろろ?
いっしょにくるか?
いやだ!! あにきのそばにいる!!

あにきっ

矢がっ!!

あにき………
あ…あにき………

フフフ
サメは死に
しらぬいも
死んだ
今度は
百鬼丸の番さ

やいやいっ
イタチッ
おまえって
やつは……

おれは
このチャンスを
待っていたんだ

よくも
よくも
あにきを
うしろから
ーッ!!

そう
おこるなよ
どろろ……
えーい　あば
れるなよ

背中が見てえんだ
きものをぬがすぜ
こらっ
あばれるなっ

あのサメは やっぱり 四十八の魔物の ひとつだった だから からだの一部が もどったんだぜ

おれの声だ おれのことばだー!!

ああ…どろろ 聞こえたか? いまのは おれが どなったんだぞ!!

いままでおれは 相手と話すとき いっさい声を使わなかった 口を動かして 相手の心に 伝えてたんだ

アハハハー アハハハハア ファハハハハハ

わらえるぞ!! 声をだして わらえる!!

……よし
背中さえ
見ればもう
おまえには
用がねえ

ばか
やろう

あとは
かってにしろ
おまえまで
殺そうとは
いわねえ

あにきが死ん
じゃったら
おいらも……
死にたいよう…
ア……アーン
アーン

なあ
死なないで
くれよう…

あ
あにき!!

おーっ
どろろっ!!

あにき
生き返った
のか!!

声だっ
声が出る
ぞーっ

どろろ
おれの声だよ
おれののどから
出る　ほんとの
声が聞こえるか?

う……うわ…かしらー!!もういけませんよー!!

こんな険しいだんがいなんだこう暗くちゃ無理ですよ

夜があけるのを待ちましょうよー!!

ばかっ!!ここまできてひき返せるか!!

だって こんなとこであと十歩も歩かねえうちに落ちちゃいますよ

ハハハハハ!! アーハハハハハ ハハハ

矢がつき ささってる よ

ああ こいつか ひき抜いて くれ

いたく ないの?

いたかった ささったときは ジーンと しびれた

あいにく 矢の ささった ところは

背骨の 上さ!!

おれの背骨はな まだほんものじゃ ないんだぜ

ほら 見ろ… おとうさんの つくってくれた 代用骨だ

へへ……へへ へへへ のへ…

あんまり 心配させる ない あにき!!

おれが矢でうたれた あいだに

おまえ なんかされや しなかったか?

イタチが おいらの背中を見て 図面を調べて いきやがったよう

そうか!…… イタチのことだ すぐ岬をのぼって いっただろうな

見ろよ どろろ

あたりがひどく 暗くなったのが わかるかい

月が しずんだんだ

星あかりじゃ この岬には のぼれないぜ

何をぶつくさ いってやがんだっ おれは 野盗の イタチっていうんだ!! 答えないと ぶった 斬ってとおるからな

かしら……… もしかしたら 妖怪かも しれませんぜ…

おい 三次っ かまわねえから 一矢ぶちこんでやれ

やっち まえ

う…へ…い……

シュ――ッ

ヤーッ

グラリ

ギョッ!!

しっかり岩につかまれ!! 宝は目の前だぞっ

おれ…… 宝なんかいらねえ 命が…命が………

か…… かしら!!

だ だれか あ あそこに大ぜい立ってやがる!!

だ だ だれだ… きさまたちは!?

ゴワ ゴワ ゴワ

あにき あれはなん だろう？

ああ…… 海の上に 火が燃えて いる………

あれは しらぬいの たましいが 光っているの かもしれねえ な……

すごいよ 百も二百も 燃えてる みたいだ

おかげで 海と陸の さかいが わかるぜ

どろろ 海岸づたいに 歩いてみよう

うやあああーああ

チェッ落っこちまいやがった……

ふんどうもおかしいと思ったら……

ならんでいるのは石地蔵だったのか

なぜこんなところにならんでいるのかな?

そうだ!!背中にたしかこうかいてあった

たしか「弓手より十三番目の仏の足を見よ」

ちくしょう

こう暗くっちゃどうしようもねえ

ひとつ…ふたつ…三つ…

四つ…五つ…

ゴチ
ゴチ
ゴチ

ゴチ
ゴチ
ゴチ
ゴチ

ギャーッ!!

ヒイー
ヒイイイ!!

ウギャ!!
ウワ!!
ヒー!!

うわーっ!!

どろろと百鬼丸の見たのは
不知火だった
不知火は　富山湾や　有明海で
見られる海の火で　海岸の高さから
見ると　いちばんよく見える
山の上へのぼれば　のぼるほど
見えないし　燃えている近くへ
いっても見えなくなってしまう

不知火は　一種の蜃気楼現象
だということが知られている
つまりこの場合は
遠い陸の漁師の家のあかりが
空気にゆがめられて
うつったというわけである

ななっ……
やっつ……
ここのつ……

くそーっ
風が出て
きやがった!!

とお…

十一…

十二!!
ここだ!!

この仏の足の下

ワッ!!
鉄の輪!!

か……金だ!!
宝だ!!

ど…ろ…ろ…
まてくれェ〜〜
あ　また聞こえた　あそこらだ
ふん　ひとり落ちて　ひとり落ちかかってる　のか　自業自得だ
どろろ　どうする？
よし　いっちょう　いくかっ
おいらに　まかしてくんな　おいらは　がけ　のぼりは　へっ　ちゃらなんだ
だいじょうぶ　かーっ
おーい
ここだーっ　ここだあ……　た…たのむう…　ウウ……
ワ…ア　ウワア…　アア…
待ってろーっ

ヒイーイーイ

助けーてー
くーれーっ!!
おれはー死にー
たーくーなー
いーいーいィ!!

どろろーっ!!
どろろー!!
きてくれー!!

あっ
あの声は

イタチ
だよっ

おや?
ここに
だれか
死んでるぜ

こいつ
野盗だよ
あにきを
うったやつ
だ

フーッ
フーッ
フーッ

ああ
東の空
が……

かすかに
しらんで
きた!!
おっさん
夜明けだよ

どろろ
この恩は
一生忘れ
ねえ!!

何か
くるよ
あれ……
舟じゃ
ないのか
!?

舟だ……
あんなにくる
いったいなん
の舟だろう

ひー
上だ上だ
もっと上だ

そう
ヒイヒイ
いうない!!

おいらの頭はな
少々ふんづけられても
つぶれねえよ

ウフウ
フウフウ

さあ
イタチの
おっさん
おいらの
頭を
ふみ台にして
はいあがんなよ

はいあがれたか…………

ええ!?

さあ
えんりょなく
ふみ台にしな
ギュー

フウフウ
フウフウ

野盗どもは
ひとり残らず
死んじまったよ
それはそうと
たいそうな人数だな
すこし大げさじゃ
ないかね

き…さ…ま…
きさまも野盗の
一味ではないのかっ
つべこべ検分に口を
だすと逮捕するぞっ
さっさと消えろっ

ザコ一ぴきたりとも逃がすなっ

一隊は岬のうら一隊は岬の上を調べるのじゃ

だれだおまえは

このあたりの代官真久和忠兵衛と申すっこの岬へ野盗どもがはいりこんだと聞いて検分にまいったのだっ

ぶっ無礼者っ斬れい!!

自分のあさましさをかくすためにおれを襲わせるのかい？

うるせえやい

グワッ!!

ギャッ!!

消えろ
？
こりゃおかしいね　おれがじゃまみたいな口ぶりじゃないか
うるさい!!
つべこべぬかさずとっとと岬を出ろ!!あといろいろと調べがあるのだっ
そうかい…あいにくだったなこの岬にはこっちが先に用があるんでね
ニャニイ
気のどくだがあとからきたほうに出てってもらおうじゃないか
おれはなあさむらいというやつを見るとゲッとむかつくんだ
だいたいおまえさんたちの岬へきた目的はわかってるぜ
宝がうまってることを聞きだしたんだろう
タッ宝っな　なんだとそ　そんなもの知るものかっ
ばかにどもるじゃないかっ
はっきりいったらどうだ野盗退治は二の次で宝さがしが目的だとね
なにをーっ!!
この岬に宝があるということはイタチの子分あたりから聞きこんだんだろうあさましい役人さね

おれがいちばんに見つけるぞ

なーにおれがほうびをもらうさ

おい上にだれかいるぜ

大ぜいのぼってくるおまえたちに宝なんかやるもんかっ

BOK

だめだあ　四方八方からきやがった

こら　手がまわらねえや

アーァァ

こいつ
できるな!!
ただ者じゃ
ないな!!

ギャッ!!

グアッ

ゲボッ!!

わあああー!!

いまのうちに
早く宝を
さがせ!!
ぼやぼや
するな!!

しまった!!

ギャッ
アーアーアア

岬の上にもだれかいるのか
ウーム
なんたる命知らずな!!

矢だっ
矢でうち落とせ!!

あち……
……

イタチ!!
だめだ
けがしたよ

へへ…へへッ
なーに
こんな矢きずなんか……

このガキ
めっ

やっ!!

ギャアーーアーアァ

この　三下やろう
こう見えても
野盗イタチの斎吾だ

イタチのさいごっぺを
ぶちかましてやるぜ!!

おいらにも
やらせてくれ
よう

だめだ　どろろ!!
おまえはまだ刀の
使いかたを知らねえ
見ていなっ

ワハハハ!!
てめえたち
どろろの金が
ほしいのか？

よーし
とってみろい
お…おれが
殺せたらな…

ブッ

ブッ

ウム…

ワァーァア

ウオッ

ウオッ
ウオッ

えーい!!
十ぱひとからげだ
ギュウ
地蔵さん かせいして おくれ たのむぜ
ヒャー

あばよ どろろ……
金が見つかるように祈ってるぜ……

おい おっさん!!
もう一度ザコといってみな!!

……

ギャー

どろろ…… た…たのむ おれに…一度だけ 金をおがませて くれ…一度だけ…

うん

あっ ない!!

びた一文 はいって ないよ

紙だ

おとっちゃんの かいたもんだぜ

ここへうめるつもりの黄金は わけあって べつのところへうつす おれの子分のイタチがねらっていて ゆだんができぬからだ みんな農民のあつめた黄金は まずしい農民がたちあがるための金なのだ

イタチ しっかり!!

ウフフ ウワウ… ウウ……

あにき～～～
どろろ けがはなかったか？
イタチは死んじゃったよう
おとっちゃんのうめたお金もなかったよ スッカラカンだ
そうだったのか…
元気をだせ!! なんだメソメソして おまえらしくもない
あくたれのひとつも どなってみろよ
あんな金なんかいらねえぞ!! チェッ
おいらは天下の大どろぼうどろろだい
へっ!! ボロを着てるくせにいばるない
ハハ……その調子だ
ボロでわるけりゃ新しいきものに変えるか
気持ちわり〜い
ハハハ……
ぼつぼついこうか
ギーッ
ギーッ

# ミドロの巻

あの法師と別れてから もう 一年も たつなあ………
だが こいつとは いまだに いっしょだ

朝だぞ どろろ………

雨 やんだかい？

ああ 日本晴れだ 別れの朝に さあ ぜっこうの天気だぜ

あの助六って子のとむらい合戦をしてねえ
おいらも　もどろうと思ってたとこだ

何?

あにきがあのさむらいに用があるように
おいらも用があるのさ　へへ

あいつを　ドブへ
たたっこんで
小便ひっかけて
やらなきゃ
気がすま
ねえよ

あきれたやつだな
醍醐景光は　富樫の
さむらい大将だぞ
おまえの相手になるか

一のトリデの中へ
しのびこむことじゃ
あにきより　おいらが
腕が上だわさ

な　なんだよう
何するんだよう

フギャーッ
何しやがんだ
はなせっ
こんちきしょう

どろろ　おれは　もう一度
あの醍醐景光って
やつに会って
たしかめたいことが
あるんだ……
それには……

一のトリデへ
もどらにゃならねえ
……おまえは
足手まといだから
ここへ残ってろっ

いやだ一

やいっ
だまって
聞いてりゃ

おいらを
足手まとい
だとォ?
なんだよう
そりゃあ

あにきが
あの
醍醐とか
いう
さむらい
に……

みれんが
あるってことは
ちゃんと
感づいて
たんだぜっ

じゃあっ
わかって
くれるなっ!!

わかって
たまっかい!!

なん
だとっ!?

へのへの
へっ

おいらも
会いたい
のさ

ドカドカッ

ドカッ

ドカッ

どけどけいッ

ドドドカッ

ドカッ

おまえはじゃまなのだっ おれひとりがいくっ!!

あばよ……

だれかにほどいてもらえよ

ギャ〜ッ!!

助けてーっ

妖怪だーい

へへへ…のへへへへ……

このうそつきやろう!!

ビクッ

あにきーい……

お館さま
おかえり
なされませ

いかがでした
戦況は

うむ
醍醐景光の尖兵は
なかなか手ごわい
あの火打ち谷では
かなり苦戦であった

だがミドロ号の
おかげでわしは
こころおきなく
戦えたぞ

あの馬はじつに
すばらしいやつだ!

木曽路さまっ
前にガケがっ

ヒョオ…

なんてェ
馬だい…

天下をとる
ともなれば
あのくらいの
馬を持た
なきゃアな……
いい馬だなァ

ええいっ ミドロ号は 何をしとる!?

子どもを なめてやって おります

あれが 親子の情と いうもので ございましょうな

軍馬に　親子の 情なぞいらんっ

軍馬は ただ

戦えば よいのだ!!

訓練だ ひきだせっ

ブルルルッ ヒーッ

こいつ…… 馬のくせに 主人の命令を 聞かん気かっ

その子馬は 目ざわりだっ どっか百姓家へ 払い下げろっ

はっ

いやァ ご主人さまが これだけ 出世なすったのは あのミドロ号がいたからさ

ウフ…… ミドロ号が あの名馬で なかったら ご主人も まだせいぜい 課長だな

馬も ああなると たいしたもんだねエ

では何かっ わしより ミドロ号の ほうがえらいと 申すのかっ!

わしが ミドロ号に 恩を受けている というのかーッ

ヒャ

聞かれ ちゃった

い い いえ そんな わけじゃ ……

もう一度 いって みよッ

ボコッ

浮浪児じゃないかいこう

おいら浮浪児じゃないよ

おいらのおとうちゃんは金持ちなんだぞ

おいらはフーテン志願だからわざとこんなかっこうしてるんだ

おいらのおとうちゃんは十億ぐらい財産持ってるんだぞ へへん

おいらがちょっとおとうちゃんに話せばよそんな馬でも五両ぐらいには買ってくれらァ

ゴ五両？

ほんとかこぞう

もちろんさだからそいつをちょっと見せてくれよ

よし見せてやる

ちょっくらこれ ほどいてくんないかなあ

どうしたんだ

ナワヌケの奇術の練習してて抜けなくなっちゃったおいら手品にこってるんだい

このご時勢に手品にこっているなんて 気楽なご身分だなまったく

ふーんこりゃいい馬だな

十両ぐらいの値うちあるね

あっ何をするっ

ブルルルルッ
ブオーッ
ブッブルル

ヒヒーン
ヒーン
ヒーン

動物のことだ
三日もすれば
忘れるわ

大将は
ミドロ号に
ばかに きつく
あたるじゃ
ないか

こいつ
売れる
かな？

一両二分に売れたら
二分だけ
ふたりでわけようや

おーい
さむらい
——ッ

だれだ
呼び捨てに
しやがるのは

ここだよォ

その馬
ちょっと
見せてよ

イ〜〜ッ!!

ヒー きゅうに ころぶ やつが あるかい

え どうし たんだよ

おまえ… ないてるじゃんか

はらでも いたいのかい え ちがうって?

そんなに 悲しそうな 顔すんない

そんなに ボロボロ なくと…

こっちまで 悲しくならァ… ワァ…ワァ ……ワァ……

ええいっ 元気がないぞっ ミドロ号っ シャンとしろっ

百年ぐらい
たったら
払ってやらァ
このやろうーっ
馬どろぼうーっ
待てーっ!!
さあこれで
あにきに
追いつけるぞ
ハイシーッ

斬りこめーい

よいかものどもっ
醍醐勢は　この河原の
下手で　馬に水を
やっておる　両翼から
一度にせめて
全滅させるのだ
ぬかるなっ
進めっ
馬より
人間のほうが
えらいことを
よくわからせ
てやるぞっ
べそかくなっ
このけだものめっ

ブルルルッ

ボコ

ボコボコ

ギャーッ!!

えーい
ミドロ号
なんだ
このザマは
もっと
はりきれっ
人間どもを
ふみ殺せっ
グシャッ
ギャー
ヒー!
わーっ!!
主人をふみ
殺す気かっ
きさま……

おまえは子どもをひきはなされ主人にむち打たれきずまでおわされた！
人間がうらめしいはずだその人間どもにおまえのひづめでふくしゅうしてやるがよい殺せ!!人間どもを殺すがよい!!
私がおまえのからだにのりうつれば………
おまえは強い妖力を持てるどんな人間にも負けはせぬ…
さあおまえのきず口を……私にむけるのだ

ミドロ号…ミドロ号……

ブルルルルッ

妖怪のにおいがする！

おれの近くに妖怪がいる！

こっちへむかってくる……

くるぞ……

ウ…ウ…グ…
カッ
グワ〰〰ッ

イヤーアアアア

くッ………
こしゃくなっ

きたっ!!

ム

ガーッ

おのれっ 逃がさんぞっ

きさまをしとめれば また おれのからだがもどる… そう思うとうれしいぜ

きさま……馬の姿をしているが 四十八体の魔物の一ぴきだなっ!!

待てっ

ふん どこへ かくれようと 足跡が……

ちゃんと 残ってら!!

おれは百鬼丸ってんだ 馬の妖怪を追っている

たしかにここへはいったはずだ どこだ 教えてくれっ

まあ すわれよ あわてたって始まらねえや

おまえも仕官のアテをさがしにきたんだろう

フフフフ…… 顔にかいてあるぜ

ここは ちょうど高みの見物席でな

この小屋から見ると両軍の勝ち負けがはっきりわからあ

おれは……そんなために ここへきたんじゃないぞ

じゃァ なんだ? 山イモを掘りにきたってのか?

とぼけるな! 馬をどこへかくしたっ いえっ! このひきょう者めっ

なんだと?

あの小屋か！

何か用か

いま ここへ馬がきたろう？

おれにけんかを売るのか？

買ってやろうか？

ちょうどたいくつしてたとこだ相手になるぜ

おれの名は……

賽の目の三郎太っ!!

そのマキの火が消えたところで抜く!!

夜が
あけてきたぜ
フッフッフッ…
まあ　勝負は
おあずけだ

見ろよ

どうやら
やつらの勝負が
ついたようだ

やい
どういう気
なんだ

この小馬を
斬ったりする
つもりなら
ごめんだぞっ

この小馬は
なあ……
おっかちゃん馬
と別れて
みなしごなんだ
……

どっかへ
売られるとこを
助けてやったん
だい

おいらァな
この小馬の
おっかちゃんを
見つけて
やるって
約束したんだ

なァ
馬こう………

ヒヒヒーン

ブルル
ルッ

やっ
あいつは!

あにきっ
すげえ馬が
いるぜっ

あっ
どこいくん
だいっ!!

わかった
あの馬
おっかちゃん
なんだな

ばかーっ

あいつは
妖怪だ!

醍醐勢の旗が見えるだろう醍醐の勝ちいくさらしいな

こりゃあ醍醐に仕官したほうがよさそうだ

おい いくか?

おれはいかない!

かってにしろっ

ひづめの音がっ!

ポッカ ポッカ ポッカ ポッカ

あ……に……き……い

どろろ……きたのか

ばかめ………

あにきーい見つけたーっ

さあ もう逃がさねえぞ よくもおいらをおいてきぼりにしたな

今度はこっちにゃ馬がいるんだから負けやしねえ

どろろ いまここらへんで馬の妖怪に会わなかったか?

妖怪?

ちぇっ またかよう

やっ あいつは…

やあ また あったな この馬を見ろよ たったいま おれが ここで 手に入れたんだぞ

三郎太っ その馬は 妖怪なんだっ おりろっ

妖怪? おまえが ゆうべブックサ いってた 馬ってのは これか

そうだ おれは そいつを 斬らなきゃ ならねえ

三郎太っ たのむ そいつを おれに ひきわたせっ!!

フン おあいにくさまだ おれは この馬を のりこなす

おまえは 指でも しゃぶって見てろ

いかさん… おりろ!

どけっ

だめだ
だめだいっ

どうする気だい
あの馬
斬っちゃいけ
ねえよ

どろろ
あの馬が
妖怪だという
ことが
わからんかっ？

ちがう！
妖怪なら
この小馬が
こわがる
はずだいっ

もしかしたら
母馬かも
知れないが
妖怪に
とりつかれて
しまっている

いったん
とりつかれた
ものは
死ななければ
はなれないのだ
かわいそうだが
あの馬は生かして
おけないのだ

あの馬を
斬ったら
しょうち
しねえぞ

どけっ
どろろ

いっちゃ
だめーっ

あにきーっ

村だ！
なんだかようすがへんだぞ
みんな死んじゃってる！
ふみ殺されたんだ！
ひとり残らずかなんてむごたらしいことをしやがるんだ
蹄鉄を打つ音だっ
しっ！
フフフ……これでよしもっともっとふみ殺すがいい

おれに命令しようというやつは……

わかったかおまえの顔は見あきたぜ

待てーっ!!

ひづめの跡があるよ

ギャアウウウウウウ

?

パカッパカッ

おまえのおっかちゃんは…ほんとに 妖怪になっちまったんだなア………

フーン村で蹄鉄を打っていたって?

その馬はいきなりおまえをふみ殺そうとした?

その小馬を見て逃げだしたのか

だれだ
グワーッ！
ギョッ
アチャーッ
ヒヒーン
グ……グ……グワッ
………
………
グオオオ

見ろ………だからあのとき斬っておけばよかったのに………

あの三郎太とかいうやつもその馬にとりつかれてしまったわけだ!!

あにきだってそうじゃねえか

あんな馬ほっぽっといて醍醐のとこへ出かけようよ

だめだっおれはあの馬を斬るっ!!

斬るまではここを動かねえぞ!!

だれかくるよ!

百鬼丸さまというお方はどちらじゃ

これを私の主人から…

火打ち谷にて決斗いたしたし みどろ号と ともに まつ

主人は火打ち谷でお待ちしておりますへへへへヒヒヒヒヒ……

妖怪めむこうから挑戦してきやがった

抜け!!

いくぞーっ

えーいっ

待っていたぞ
命知らずめ!!
賽の目の三郎太
おれは　おまえなんか
相手にはしねえ
おまえは
馬の妖気にあてられた
あわれなあやつり人形さ
もう
その馬をよこすんだっ

死んだの……

気を失ったのさ
これでやつも正気に
もどるだろう

どろろ
その小馬に
母親のことを
あきらめ
させて
やれよ

……なっ……
見ただろう…
おっかちゃんは
もう　いねえんだ
からよう……

グアアア
グァアアァ

# どんぶりばらの巻

なあ　おっかちゃんなんか
いなくったって
強く生きのびろよーっ
おいらみたいになァーっ
がんばれよーっ

ここらにゃ妖気は感じねえ

どこだよっ妖怪はっ

いた……いやがった……

とって食うぞうーフェッフェッ

こんちきしょう

ペタン ペタン

あいていてってってってってっ

こうしてやらあ

ドザ

ピヤーッケッケッケッケッ

こいつ中身は女だ だましやがったなっ

どんぶり沼へ落ちた子は三日たったら骨になる
鹿もうさぎも近よらぬ帰らにゃ小鬼がついてくる

ガンモウー
でた〜〜っ!
ガガンモウー
ヒーッ

妖怪だア
アーアン
アーン
ウァーン
あにき妖怪だってよ
何をばかな

どんぶり長者とは変わった名だな

さようで……？うちのお米が化けもののまねを……そりゃとんだおさわがせいたしました

すこし変わっておりましてな

いつもはおとなしく遊んでおりますものを

おわびといってはなんですがどうぞ

ごゆるりとおとまりを……

このばか!!

さむらいの前で化けもののまねなどやるなとあれほどいっておいたのにっ

フェッフェッ
フェッ

やいおまえ
いったいどこの
むすめだ

あたい？
どこのって
？

フェーッ
フェ　フェ

こいつ
パア
らしいぞ

ちぇっ
パアじゃ
しようが
ないや

どろろ
骨折り損
だったなあ

たまに
おまえが
かっこ
いいとこを
見せようとすると
そういうことだな

うる
さいやいっ

あにき
町だぜ

よう　こいつは
どこの
うちの子だい

そ　そりゃ
お米さんじゃ
どんぶり長者
さまのとこの
ひとりむすめで
………

だけどよォ
どんぶりばっかりでっかいじゃないかよォ
だんなさまがたべものはすこしでも　入れものが大きければ見た目の感じでおなかもふくれるだろうとおっしゃって………
どんぶりならたくさんありますだ
ケッ　ばかにしてら　どんぶりや茶わんではらがふくれりゃ世話がないや
あにき　長者はものすごいケチなんだぜ　どっか　たべものをかくしてあるんだよ
おい　どこへいくんだ
この家をさぐって
うまいものでもあればとってくらあ
よせ　どろろ
いまさらどろぼうでもないだろう！
ヒヒヒヘヘヘヘー　こういう金持ちはたいていかげに何かかくしてあンだョー
泥棒百科第一ページにかいてあらあー
だけど　ちっともうまそうなにおいがしねえな
こりゃひどいや　ほんとになんにもねえ　スッカラカンときたよ
へんだな

さむらいじゃないのよォ ちっこい子だよォ
どっちでもよいっ へまをしやがって 蔵へいって すわっておれっ
あにきっへへへ 出るよ 出るよ ごちそうが出るよっ
ちょうどはらがへってたとこだ
ヘッ
あにき どんぶりだよ どんぶりに これっぽっちの粟だよ
ふーん わけがありそうだな
なんてけちなんだい!
わけを聞こう
へーい
大きなこえではいえませんだが
……このあたりは醍醐景光さまのご領内でございまして……
はい 醍醐とのさまはいくさをなさっておいでで そのために年貢をたくさんおとりたてになります
それで この町はわずかな粟と稗で…たべるのがやっとなのでございます
ですからえ みんなやせてしまいましただ
うそつけ

ヒタ
ヒタ
ヒタ

お米のバカめ！
このあたりで子どもでもおどかしていればよいものを　街道まで出るからじゃ

はらがへってきたな……なにせ栗があれだけではからだがもたんわい

では わしは
出かけるからな
あの客人を
たのんだぞよ
忍法
壺がくれ
せいぜい
どんぶりぐらい
大きいのを
おだししな
へい
おもてなし
いたしやす
ウン
帰りは
夜明けに
なるぞ
へい
いってらっしゃい
まし
ギュー
ギュー
ボキ
ズバ
ッ
ズデデー

クッフーン いいにおいがしてきたわい へっへっへっへっへっ
おお…… ありがたい ありがたい
ウム
ガツガツ
アムウムム
ムグモグ
バビバビ
モグモグ ムシャムシャ コリコリ

ここじゃて
………

肥だめに
見せかけて
ひみつの
出入口とは

ギンバ
用意は
できとる
か？

へい
できて
おります

おとうさんは化けものにつけねらわれているらしいよ
いやだぁ そんなの いやだぁ
おとうさんに会ったとき……
妖気がフッとにおった
このままだとおとうさんは化けものにとり殺されるぞ
おまえはおとうさんが死ぬのはいやだろう?
いやだぁ おとうさんが死んだら あたい村の子にいじめられるぅ
じゃあ おとうさんをすくってやるから教えてくれ
夜 おとうさんはいったいどこへいく?
………
なぜ いわないっ!?
知らない 知らない ………
フェッフェッ フェッフェッ

お米とかいったね　おまえ……

ゆうべはいたい目にあわせてすまなかった……

あたい　さむらいはきらいだ!!……

ひとつ教えてくれないか　おまえが知ってるなら…おとうさんはああやって夜出かけることが多いのかい?

……　…いわないよ　教えないわよ

そうか…

おまえ　ほんもののお化けが出たらこわいかい?

そ　そりゃこわいわよ……

おとうさんが化けものにとっつかれたら?

……………

よし お米 もういい
きたのは ガキどもだけだな よそ者は こなかったろうな
お米 もう帰れ 帰って ねてええぞ
ウヘヘヘ… この白いめしを はらいっぱい 食うことだけが わしのたのしみじゃ

ガンモウ〜

ギャーッ
出たーっ!!

お化けだ

ガンモウー

わかったぞ ヒヒじじい おまえは年貢米をくすねて こんなとこへかくして ひとりできては こっそり食ってたんだなっ

それで あのむすめに お化けのかっこうさせて この近くへくるやつを 追っぱらっていたんだろう！

そこまで わかって しまったのならしかたがない

ギンバ そいつを押し入れの長持ちの中へ！

あしたの朝 こやつをどんぶり沼へなげこんでしまえ

かしこまりやした

あそこへしずめれば二度と浮かんでこん どうせそいつは よそ者じゃて……………

だせ！ だせ！

ふう…… とんでもない探偵こぞうだ おかげで

めしがまずくなってしもうたわ

なんだお米 もう帰ってよいぞ

ピ〜〜
だれだっ
きさま あの チビ助だなっ
ギンバ！こいつを つかまえろ
ドターッ
わしのひみつを のぞいたのが 不運じゃ もうおまえは ただでは帰さん

どんぶり長者はおらぬかっ 醍醐景光がきたと申せっ

おとのさま…だんなさまはいまおるすで……

きさまたちはおれの命令も聞かずに年貢米をさしだすことをことわった！ なぜだっ？

め めっそうもない 私どもはちゃんと年貢米をだしておりますだ

私どもはたべるものもたべずに年貢米だけはおさめております

だまれーッ！

長者が申しておるっ 村の者が供出をこばんでいて年貢米が集まらんとな！

もうかんべんならぬぞ

そのむくいがどうなるか思い知るがよいっ

おい お米 聞こえんのか
お米!!
お米は もう 帰った……
お米じゃ なかった のか
きき きさま……だれだ!!
うわ〜〜〜っ

村の連中のいっていることはほんとうだぜ
村の連中はほんとに苦しんでるんだ粟を一日に一度しか食ってないいんだぜ
やかましいわっ
このじゃま者を追っぱらえっ
こやつ!!
ウオー
みね打ちだ
……うむ……よくもわしの家来を………
まだわからないかねおっさん……
わからせてやっか?
ゾッ……
おぼえておくぞっ
パカッ
パカッ
なわをほどいてやれ
ありがとうごぜえます

武士にたてつくと……

そ
そんな……

長者さまがそんなことをおっしゃるなんて……

よし
きさまだ!!

しばれ

あんた……

長者の家のむすめもしばるのだ

よし
打てっ

あーっ

まてっ!!

ひさしぶりだな
おっさん!

それはちょっと一方的じゃないか

ム……
百鬼丸……

どうだ 苦しいか

よしよし それでいい

よーし へその穴を 開け

へ へそ……？

ス

ウギャーッ！

う……う く…苦しい 苦しい……

ウー ウー ウー

ス〜……

ス〜

もっと食え

もっと食え

たんと食え

たんと食え

フオウ…も
もう…フウ…
…か…かんにん
してくれ……
た…たのむ

はらが
まりのように
なるまで
食うのだ

ヒーッ

そ…その
カネの音を
やめてくれ
それを聞くと
…ひ ひとり
でに手が
めしを口へ…

そうだ
もっと
食え
たんと
食え

ウー
ウー

もっと
食えエエ
たんと
食えエエ

お米……なんだって?
あたい……おとうさんのいるところ教えるよ!
こっちこっちだよ
ここか!
よしっ

さあ
もう一度
食いなおせ

後生だ
もうこれ以上
食ったら
死んじまうで
……

なんと?
おまえがためた
米ではないか
みんな食うのが
なぜいやだ?

カーン

ヤー!!

くえ……
……ケケ
ケケケ……

カーン

ガツ
ガツ
ガツ
ウーウー

フーッ
フーッ

カー!

もっと
はやく
くえー

カーン

こ……こんにゃろ……オ
こうしてやる……
ガクン
たんじゅんなやつだ
こえつぼの中がかくれ家とはおそれいったな
おおっ

ヌッ

どんぶり長者に会わせろ

だんななんかいねえ

ここはとおさねえぞ

とおせっ どんぶり長者があぶないんだっ

聞きわけがないやつ

けえれっ

けえれってのに

たたきつぶすど

だせ……だせ！

く……く……る……し

はらからだせ！

プープープーッ

いいかっおれがよしといったらそのバンソウコウをはがすんだぞ！

サーッ!!

よしとれっ

ウ……ウ……フ

ヒュ

やっぱりかっ！

妖怪め……

はらをだせっ

ペタリ

おとうさん！

く　くる……苦しい苦しい……

お米手をだすな

長者外へ出るのだっ

手をかせ

ウーウー

本体のない精気だけのやつだ！
本体はきっとどこかべつのところにあるんだな！
やつはきっとそこへいくぞ
おとうさん……!!
お米……長持ちの中に子どもが…
わしがわるかった

妖怪め！くらえっ

シューッ

熱湯でもききめがないとは！

こいつ実体じゃないなっ

この島に
あの精気がすいこまれた
ム……?
こいつでっかいカメだっ

ム………沼か

すさまじい妖気だぞ

ザギッ

こしゃくなっ

うわっ

しまったっ

こいつ……

しずんでいくぞ!!

は　はかられた……

妖怪の本体めっ
すんでのことで気づかずにワナにかかるところだったぞ！
どこからきやがるか
フフフ……
おもしろくなってきたぜ
…………
…………
ブワッ！
な
なんだ

ゴボゴボ
ゴボゴボ

おっ！
頭が出やがった

いっきに
ひっぱりあげろっ
セーノオ
セーノオ

ザーッ

あにきーっ
村じゅうを
呼んできたよ
そのカメを
ひっぱり
あげたら
助けて
やっから
なーっ

どろろ…
感謝
するぜ

ピューッ
ピューッ
ピューッ

あっ あにきが いたっ

わあ～～

カメの首のところへつき入れろ！

ダァァア

ワー
ワー
ワー
ワー
ワー
ワー
ワー
ワー

そらーっ

あにき首だいじょうぶかァ

よくやったどろろ……

カメのやつ腹が大きくてあんまり動けねえんだ

竹のフシを抜いて先をけずれ ひと思いに退治してやる

やった!

ジュー
ジュー
ジュー
ジュー

ジュー
ジュー
ジュー

ざまあみやがれー

こいつめ この沼の中のものをはらいっぱい食って動けないほどでかくなったものだから

自分の精気だけを外へ泳がせて人間にとっついて栄養をとっていたんだ 長者はそのぎせい者さ

長者は栄養をすいとられて腹がへってたまらないものだから つい年貢米をくすねたうえこっそりかくれて食って飢えをしのいでいたんだ

つぎは
どう
するだ
このままじゃ
化けものは
死なねえぞ
竹の中へ
薬を
流しこむん
だ
いくぞっ
ジューッ
ジュー
ジュー
ゴワー

おい浪人っ
おまえの腕で
こいつを倒せ
こいつを
殺せばおれを
仕官させて
くれるか？
また
会ったな
百鬼丸
いつぞやの
決着が
まだ ついて
いなかったな
ここで はっきり
させちまおうぜ
フフフ……
百鬼丸
かくごしな
こい
わあーっ!!
目が……
あにき!!
コロン

あにき！あにきを助けるチエをだしたのはこのむすめだぜ

えっ！

カマにひもをつけてカメにひっかけろっていったのはお米だ

おまえか……

よく考えついてくれたな

あたい……あんたを助けたかったの……

ありがとう……………

おまえはりっぱだよだれにだって負けやしないいいむすめだ

ハッ

百鬼丸！多宝丸のかたきを討たしてもらうぞ

ばかーっ

バシャーッ

……お米……

あたいあんたが好きになったの…

あたいをばかにしなかったのは…あんただけ……

お米あばよ

どこかさむらいなんかのいばれねえ国でしあわせに生まれ変わりなよお米………

どろろいくぞっ

あにき!!
目玉が落ちたよ
ほんものの目が
できたんだ!!

ウ………
ウッ………

まぶしい……
目がくらむ

キャーッ!!

やめてーッ

ばかも
のっ!!

お米

ガキン

# 四化入道の巻

あにき!! 待ってくれよォ

どろろ水はどうだいい気持ちか
ちぇっあにきはにぶいんだな
このものすげえ暑さを感じねえんだから
おれはなどんな暑さも寒さもからだに感じないんだ
その感覚まで魔物に持っていかれてしまった……
じゃアらくじゃんかいつだって暑くもなく寒くもなくらくだもんな
らくなもんか
人なみに暑い寒いを感じないままとつぜん熱気でうだって死に　寒さにこごえて死ぬかもしれないのだからな……
あにきっいるぜいるぜっさかながうようよ岩の下に…
いま二、三びきでっかいのをとってやっからなっ
でーり
バム
フギァ

ヤスリがあれば なんとか 切れるんだが…

どろろ 待ってろ おれはこの 近くの家から 何か借りて くる

チェッ いつまで 待てばいいんだよう

さあ 一時間か 二時間か…… とにかく こうしてても しかたがない

かぜひくなっ

もう ひいたァい

ハックショーイ

あばらや一軒ない なんという山だ…

どろろのやつ ふやけてしまうぞ

こいつは よわったな

ギャープ いてえーッ

あにきーい さかなにかみつかれたーっ

なにっ

どれ見せろっ

ヒーイ

どろろ 落ちつけ これはさかなをとるしかけだ そいつにさわったんだ

とってくれよう!! あにきー いてっ いてってってっ ふう…いてえやい

あばれるな あばれるとますます腕に食いこむぞっ

ピーッ

あばれるなというのにっ

ふーん そいつはちょっとやそこいらではとれねえな

はがねでしめられてる おれの刀でもこいつは切れねえ

じゃあ どうすりゃいいんだァい

古寺ににつかわしくないりっぱな仏像だな

どなたじゃな

こんな山寺へお参りにこられたのか？

いや旅の者です

じつは………

ミーンミーン
あった!!
古寺だ
ミーンミーン
ミーンミー
おたのみ
申します
だれか
いませんかっ
ご住持っ

用意してくる すこし待って くだされ

みんな 聞け えものが かかったぞよ それも さかなではない もっと味のよい 肉のやわらかい子どもじゃ

かすかに妖気が！

こやつ……

つれの者が谷川のさかなのわなに手をかまれまして……

ヤスリでもかしていただこうかと

おお　それはすまなんだ…

あのわなはこのわしがつくったものでな

わしはお寺の住職で四化入道という者じゃ

ずいぶん遠まわりをしていくんですね　ぼくはもっとまっすぐにお寺へきたんだが

いや　これがうんと近道になりますて　ほら　もう谷川が見えてきたじゃろう

時間かせぎじゃないのか?

な　なに?

そら　ここじゃ

どろろ

いない!!

どろろ

ゴチャ
ゴチャ
ゴチャ
ゴチャ
ゴチャ
ゴチャ

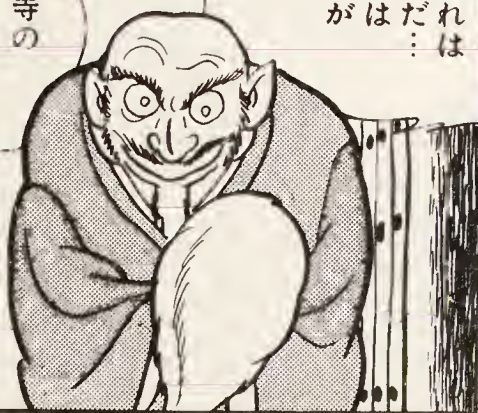
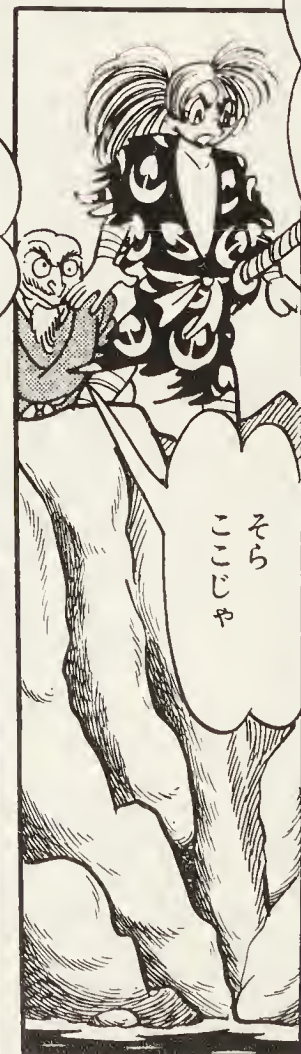
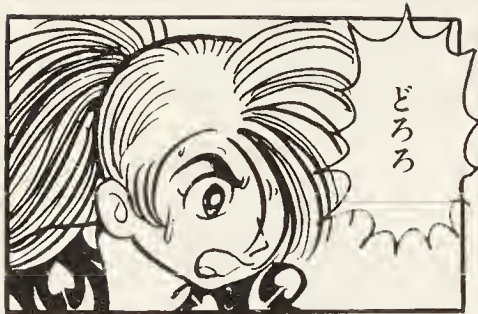
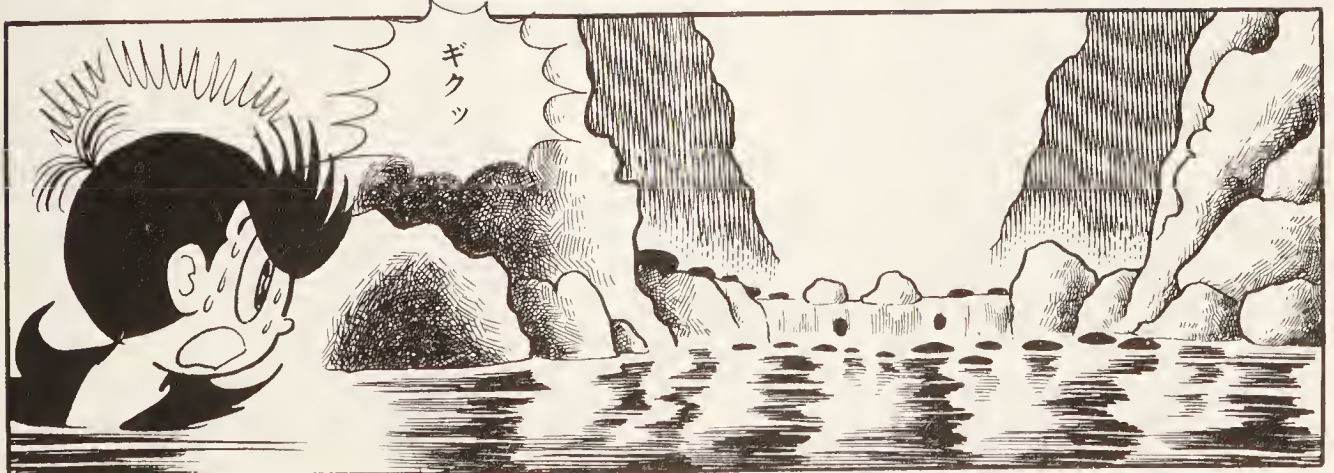
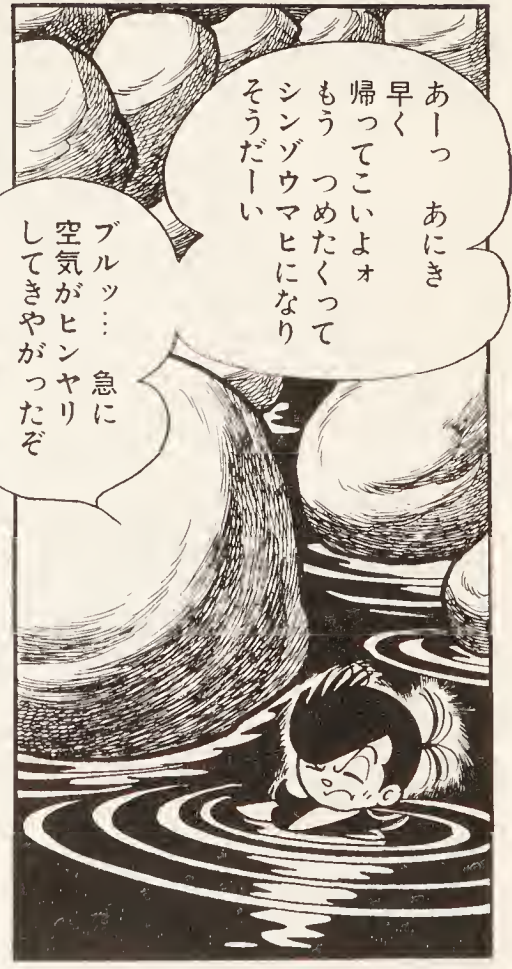
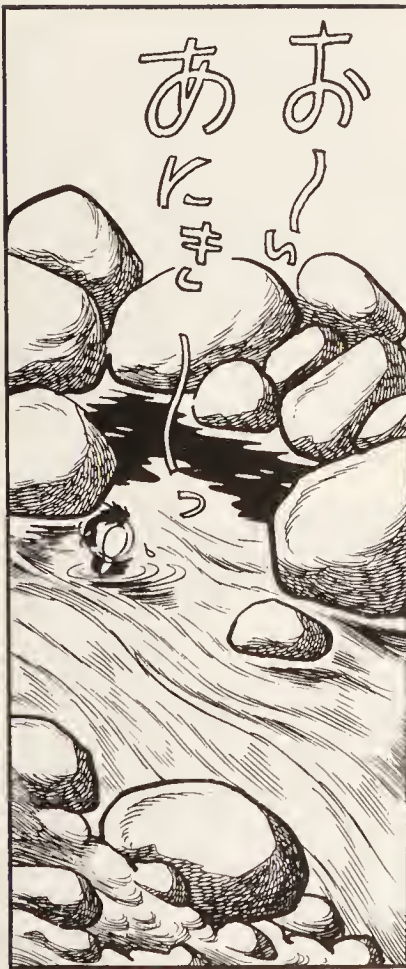
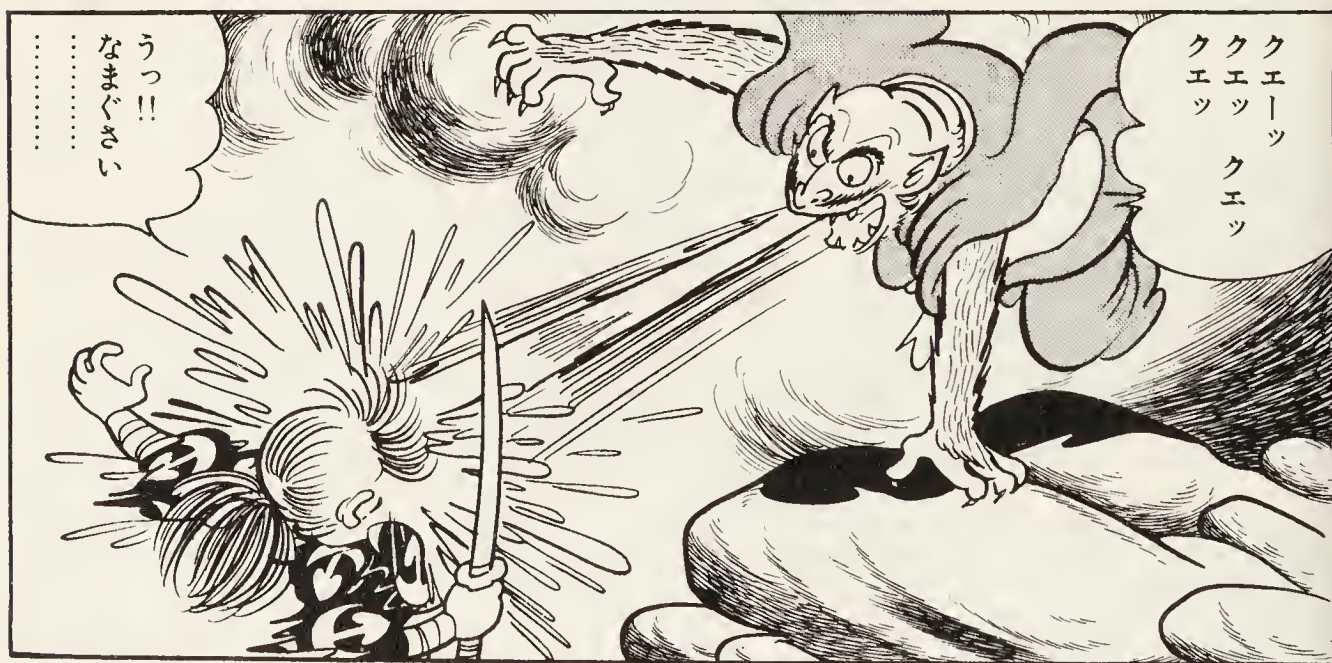
あーっ あにき 早く 帰ってこいよォ もう つめたくって シンゾウマヒになりそうだーい

ブルッ… 急に空気がヒンヤリしてきやがったぞ

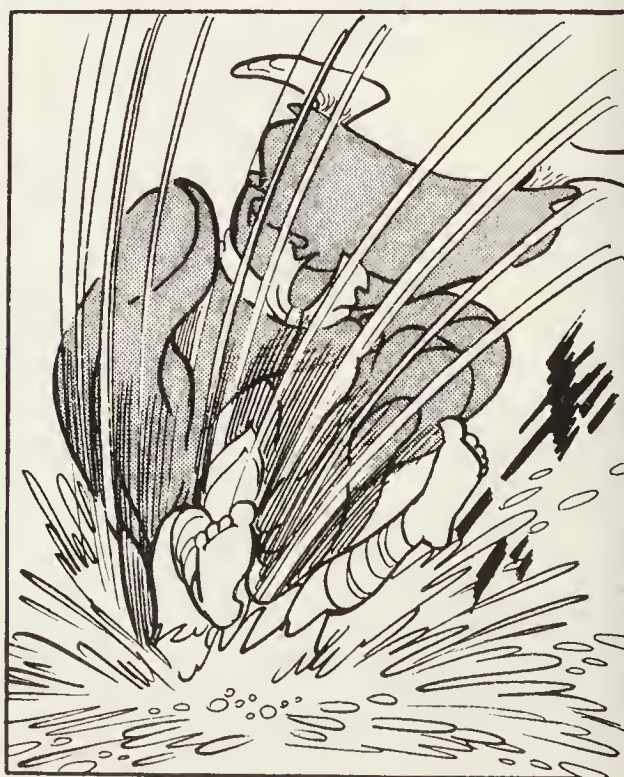
な……なんだい セミの声までピタッとやんだ

なんだかゾクゾクしてきたな

おーい あにきーっ

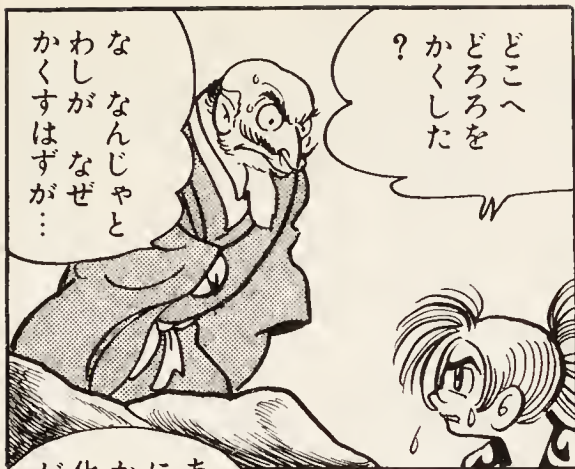
ギクッ

ていっ!!

クエーッ
クエッ　クエッ
クエッ

うっ!!
なまぐさい
…………

うぷ……

手が抜けて
もうどこかへ
いってしまっ
たのでは
ないかな

いや……
手が抜けたと
いうより手を
はずされて
どこかへ
つれ去られた
ということだ

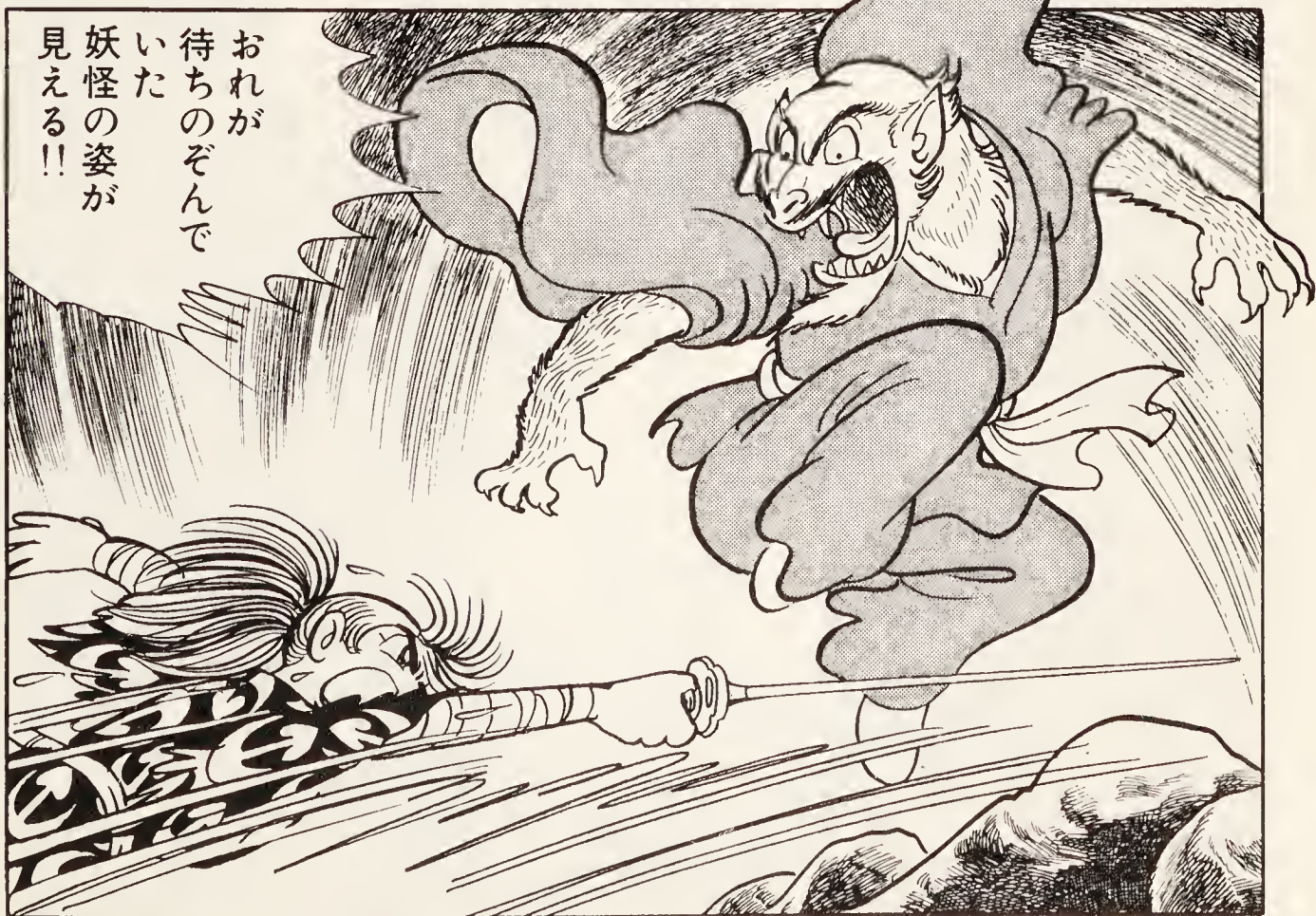
どこへ
どろろを
かくした
？

な　なんじゃと
わしが　なぜ
かくすはずが…

そろそろ
化けの皮を
ぬいだらどう
だい！

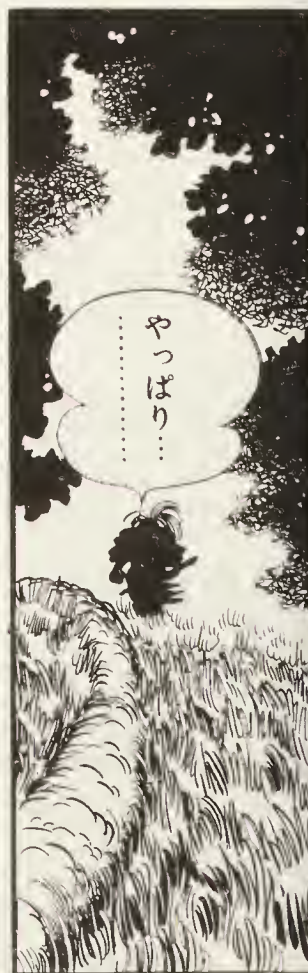
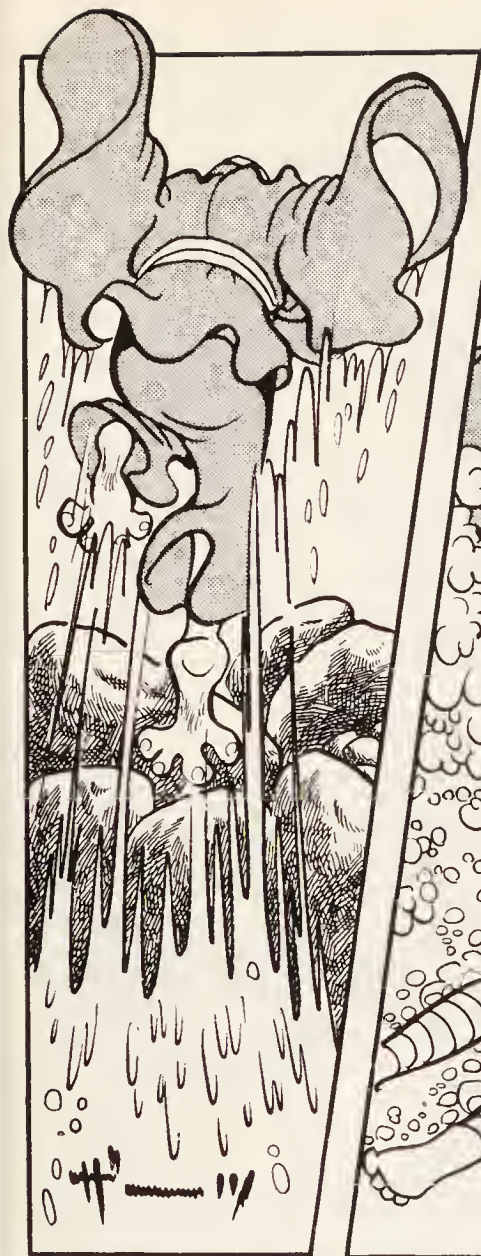
あんたが
わざと遠まわりして
そのあいだに
どろろを　だれかに
おそわせたのだ
わかってるぜ

とんでもない
わしはそんな
……

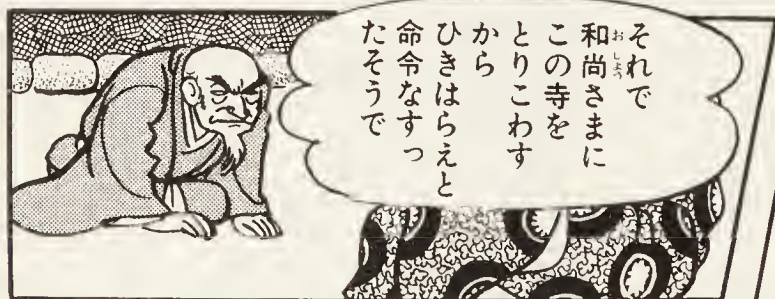
あんたのまわり
には…かくしても
かくしきれねえ
化けもののにおい
が……

おれが
待ちのぞんで
いた
妖怪の姿が
見える!!

まるでもぐらのとおった跡みたいだ

やっぱり……

山門から寺の境内の裏手へ

?
スポ
グワァァァ
ザーッ
むッ……
この穴へ
逃げたの
か
地面に
みみずばれのように
土がもりあがっている!

醍醐さまちゅう
このあたりのえれえ
大将さまがここに
でっけえとりでを
つくろうと思って……

家来つれて
この山の寺へ
きたでがんす

それで
和尚さまに
この寺を
とりこわす
から
ひきはらえと
命令なすっ
たそうで

和尚さまは
がんとして
首をたてに
ふらねえ

というのは
この寺がとりでに
なればわしら
三か村は……

敵がせめてくると
いくさの中に
ほうりこまれて
しまうでな……

和尚さまが
あんまりうんと
いわねえもんで……

出てこいっ妖怪めっ!!

どろろーっ

ガサッ

だれだっ

き　きこりでがんすよ　この先の里のきこりでがんす

あき寺に声がしたからだれかと思ってきたでがんす

あき寺?

ここには住職はいないのか?

へい　もう十年ぐらい人は住んでねえでがんす

あれほうだいにあれているで……

おまえさん旅のおさむらいだね　この寺の話ご存じねえでがんすか

うん知らない何か話があるのか

この寺はな山の上にあって三方が見とおせるでとりでにはちょうどええで…

それいらい だれも 気味わるがって この寺に 近づかねえ

フーン……

その供養塔の下が和尚さまうめられなすった場所でがんす

……

おまえさま 何をなさるだっ ばちがあたるだっ ばちがあたるだっ

かまわん…… こんなものは無用だっ

かんしゃくをおこした
醍醐さまは
和尚さまを
しばったまま
生きうめにして
しまっただ

和尚さまは　なあ
身をぎせいにして　三か村
おすくいになったでがんす
なあ　えれえ和尚さまで……

醍醐さまは
寺をこわそうと
なすったでがんす
すると
どっからともなく
野ねずみや
かえるや
かわうその
大群が現れて
さむらいたちに
とびかかったで
がんす

ここにとりでなどつくらせぬぞ〜〜〜

そりゃわかってるさ

だがおまえは妖怪になっちまったその証拠におれのつれ子を食おうとしているっ

おれはおまえを斬らなくてはならないんだっ

待ってろ! きっとおまえのいどころを見つけて・しとめてやるぞ

ウハアアア
こわやの
こわやの

うらめしや
わが魂魄
虫魚禽獣の
精気を借りて
までも……

この山を侵す
者にあだを
なさんと迷い
いでたるを…

和尚だ
なっ!!

和尚!!
おれは百鬼丸だ
妖怪の声も聞けるし
妖怪を殺すことも
できるんだ!
おれのつれ子を
返してもらおう!

おまえが
地面の下へ
うめられたとき

たまたま
土の中に
野ねずみとかわうそと
もぐらとかえるがいたんだ
それらの動物どもの
精気とまざり合って……
おまえは妖怪として
生まれ変わった!

ガラガラガラガラガラガラ

天井があいたっ
あんな高いところだ
……ここは井戸の
底かあ？

ゴワゴワゴワ

ブクブク ブクブク ブクブク

ブクブク ブクブク ブクブク

やい！　やいやいやい
さっさと食うんなら
食いやがれ　もう
おいら　かくごを
決めたんだっ
どうしたんだ
何をえんりょ
してんだいっ
食いねえ　食いねえ
よっ
この
化けもの
め！
ねずみの
ような面
でだまっ
てねえで
なんとか
いったら
どうだ！
…おまえのつれは
てごわい……
ああ
あにきのことか
あったりまえよ
あにきはな
おまえみたいな
妖怪専門の
殺し屋なんだ
おまえを
おとりに
つれの男を
わなにかける
つれの男と
おまえを
いっしょに
食う
グワーハハハ
グワーハハハハ
クワッ
クワッ
クワーッ
クワーッ
くそったれェ　あにきは
そんなわななんかにはまる
人間じゃねえぞっ
ク…ク…
ク………

こんな中にとじこめられていたのかっ すぐだしてやるぞ
あにき だめだ こりゃあ わななんだ
すぐ手のとどくところにおまえはいるんじゃないか いまいくぞ
ちがう ずーっと下だ あにきがはいると落っこちるよ
穴の途中にへんな膜みたいなものがはってあって大きく見えるんだよ
下はものすげえ大群だあ 落ちてきたら最後だよう
フフフ…どろろ心配すんな
いま助けにおりていく
だめ だめ だめ だめーっ
きちゃだめーっ!!

グ
ゴ
グ

仏像の首が!!

さては……

あっ！どろろだっ
どろろが中にいるっ

お〜〜い
どろろ〜っ

あっ
あにき
きちゃ
いけねえっ

よーし
出てこい
……出てこい!!

ギャー……ッ

あにきー その足に つかまるぜ…

ばかっ 何を するっ

だったら早く ひっこめなっ ひっこめるんだ

そこの きこりの オッサン

おまえの たきぎみんな 火をつけて こっちへよこし なよ

おれがとびこんで 助けてやったのに

とびこんじゃ あにきのほうが やられたよ それより……

こうやってくべて 中をむし焼きにするんだ あにき この中はな…… 通路になっていて

谷川の 穴へつうじて るんだぜ化けものが あっちへ逃げだすぜ

ほんとかっ

ギュシーッ

くらえっ!!

ギャアウオー

ガァアガァアアアアア

やーっ

えいっ

たーっ

かんじんの四化入道め…早く出てこないか……

おそい……

そうか！さては…

よめたぞ…

# ぬえの巻

やった
……
かわうそともぐらと
野ねずみとかえるか！
和尚…
山を守るために
よみがえってきたのに
むだだったわけだ
せっかく
しょうがねえや
妖怪だったもの
な　あにき……

セーー
セーーエーー
ヤーー
工事の進行がおそい！
いくさが間近いのだ
もっと能率をあげさせろ手を休めるなっとまらせるなっ

おかしい！ もうこれでとおりすぎた 三つの村がまるっきり もぬけのからだ

おい じいちゃんよ！ この村はいったいどうしたんだい…… もぬけのカラで

もう 二か月にもなる…… この先の丘に とりでが 築かれて

この三か村の 人間はみな 堀づくりにかりだ されたんじゃ…… 女 子どもまで……

こいつ……
とのさまに
面とむかって
無礼者が！
ギャー
またふたり
やられたって
きょうは
これで
五人だ
この分だと
あと半月で
ひとり残らず
殺されちまう
だぞ
やるか？
よし
やろう
もう
こうなったら
がまんできねえ
半分は
死ぬかも
しれねえだぞっ
半分死んでも
全部殺される
よりゃましだ
みんなに知らせて
くるだ
いいか！
時間は正午
丸太に火を
つけるのが
合図だぞ
ついに百姓ども
きょうのひるに
ここを脱走する
気でございます
こしゃくな……
思い知らせて
くれるっ

おじひでございますっ!!

村には病気のおやじとおふくろがねております！一度だけ看病に帰してくだされませなにとぞ……

ならんッ

工事が終わるまではかってな行動は許さんっ

横におなり私たちがかわってあげるよ

何をしとるっ

とのさまこの女が子どもを産みそうで……休みをいただけませぬか

なにぃ！

ギャッ!!

ギューッ

な何をらんぼうな……

あまりといえばむごい……とのさまは鬼じゃ

ケーッ！
ギャッ！
ヒューッ
ヒューッ
ヒューッ

合図だ
それっ
逃げろーっ

おっ
おお…おっかあが……
焼け死ぬ!!
おっかあーっ
おとうーっ
うっうっ…うっ……う……
わあああ…

とまれー
とまれーっ

きさまたち
逃げる気だな
どこへ
逃げる?
きさまたちの
村へか?
それなら
話は
簡単だ

あとくされの
ないように
村は焼いて
やった

これで
もう帰りたく
ても　帰れまい
フフ
フフ
フフ

村に火を!!
くそーッ!!

とまらん
かっ
やつを
うてっ!

かな〜〜しや
か〜〜な〜〜
しや〜〜〜
か〜〜な〜〜し
〜〜〜や〜〜〜

おまえは
どこから迷って
きたんだ
名のれ

わしは……
大川村ばば
焼き殺された
あわれな怨霊
じゃ……ヒーッ
ヒヒーッ
病のトコで
逃げることも
できず
焼け死んだ

焼き殺された？
だれに？

さむらいめにじゃ
醍醐めにじゃ〜〜〜
おおお……

醍醐には四十八の
魔物がとりついて
おるわ……
だから罪のない
女 子どもや
年よりも殺す
あれはのろわれた
運命(さだめ)の人間じゃ

おねがいじゃ〜〜〜
息子におうて
くだされ
息子をはげまして
くだされ ばばの
かたきを……
か…た…き…を…

あにきっ
なんだかキリが
こくなってきたよ
あやしいぜ
妖気だ……
見ろ　キリの
中におかしな
老婆がいるぞ

醍醐景光！

おれの……おやじ……

どうしたんだ なんとも いいようのない この気持ちは…

どろろ 人にはいろいろな 生きかたがあるんだ

おまえとおれとは ここで別れた方が よさそうだぜ

別れるって！

ふ ふ ふざけんな あにきとは 一心同体じゃ ねえかっ

どろろ おれは醍醐に 会う ことによると 醍醐景光と さしちがえて 死ぬかもしれない

おまえをまきぞえに したくねえんだ どっかへいって 元気でくらせよ

消えろ！
迷わずに
三迷の川へ
いけっ
この亡霊め

か……な……し
や……か……な
……し……や……

消え
ちゃった

見なよ
あにき
とりでだ

ちくしょーっ
でっかいものを
つくらせやがった
なっ
どこといくさを
やろうってんだい

あにきっ

あにき
何　考えて
いるんだい

そうか……おまえが女だってことを母親がわざとかくしていたのかもしれないおまえを強く育てるためにな

じゃかっしゃいおいら女じゃねえやーっ

どろろお別れだけっしておれを追うな

いいむすめになれよっ

だれだっ

たとえ どんなことが あっても あにきから はなれないぜ もし どうしても じゃまだってんなら

おうッ スッパリ やって くんない!!

どうせ 別れるんなら 死んだって いっしょだ おいら あにきに殺されらァ さあ!!

さあ 斬れっ

斬れよ どうしたんだ あにき! 死んだって うらまねえぜ

おれは 女は 斬らん

えっ

女は斬らんと いっているんだ

どろろ おまえは女の子だ おれはわかってたが だまってたんだ

よせやい お おいらが女の子? じょうだんじゃねえよ

ウイッ ヒッヒッ シッシッ シッ

ウヘッヘッ ヘッヘ

自分で自分が 男か女かも知らな かったのか?

ガラッ

坊や……

おれは
おばさん
なんかに
子どもよばわり
される
おぼえは
ねえよ

も……
もしや……

だれだ
きさまは

ごらんのとおり
ただの浪人さ

このとりでに
やとってくれ

やとう
だと?

そうさ

いくさが始まるん
だろう　剣のたつ
やつは召しかかえ
てくれるんだろう?

………

とにかく
入れてくれ

いようまた
会ったな
とのさん!

百鬼丸!!
きさまか…
…よくきた
きさまを
さがしていたのだ

おれはもうこんりんざい
おまえさんには
会うまいと思っていたの
だがね

きさまに
会わせたい
者がいるっ
ついてこい

私がわるかったの…私は……この十年間そのために…死ぬほど苦しんできました………

苦しんだのはこっちだ このつらさはだれにだってわからねえさ

なんだ なんだいっ それがサカズキかわした仁義ってもんかい ろくでなしのヒョットコやろー!

ガボッ

さわぐな ちび助っ

とりでのやつらに気づかれたらどうするっ

私の子は
からだじゅう
魔物に
うばわれて
……手も足も
何もかもなく
生まれてきた
のです
…………
…………
それでその
子をどうし
たんだい?
たらいに
入れて
川へ流し
ました…
……
おれもまだ
赤ん坊のころ
たらいにのせられて
川を流れてきたんだ
そうだ……
では…
だがな
おばさん
早がてん
しちゃ
いけねえ
おれは
いくらなんでも
自分の子を
川に流すような
ひどい親を持った
おぼえはないぜ
おれの親はな……
寿海といって
えらい医者だったん
だ
おれのからだを
ちゃんと一人前のように
つくりなおしてくれたんだ……
……やさしいりっぱな人だったぜ
……百……百鬼
丸……ゆ……許し
て……おくれ

ほれっ

そーりゃ

ほいっ

やい
やいっ

大の男に……ンニャ
小の男にこんな石運びさせて
何がトクなんだい
おいらみたいのには
穴ン中でほじくらせりゃ
もっと働きが
いいぜ

よーし
中へはいれ

がってん

どいた
どいたァ

さあ
おいらに
まかせとけってんだ
天下一の
抜け穴作りの
名人だぜ

ちび助
ギャーギャー
わめくな
地上へ聞こえるぞ

石っ
！

ホイ
キタ

おれたちは
大川村のもんだ
村を焼かれて
親兄弟を焼き
殺されたんだ

もうすぐ
ここいらは
戦場になるだ

だがおれたちが
そうはさせねえ
そのまえに
醍醐にほえづら
かかせてやるだ！

いつまでも
おれたちゃ
なきね入りは
しねえ

何
してるん
だい？

あっ!!
トンネルだね
トンネル掘って
とりでの中へ
はいろうって
いうんだろう？

ちび助
頭がいいぞ

だが
それを
見た
からには
もう
ただじゃ
はなさねえ

仲間になるか？
それとも？

なるよ

ようしっ
決まった
じゃあ
手つだうんだ

石だっ

ほれっ

石っ

へのへのヘッヘときやがら

こわっぱどこからしみこんできおった!

ウアッチ

ギュウ〜〜ウ

これだけはいっておくぜ おばさん おれは四十八ぴきの魔物を倒すまでまともなからだじゃねえ、

もし おれをわが子よばわりするんなら……

おれが何十年かかってまともなからだになってから呼んでもらいたい

あと三十ぴき分とられた部分が足りねえんだ

ホイ

ホイ

ホイサ

おい つうじたっ

うまく やったぞ

貫通か ありがてえ

シーッ

気をつけろっ

しまったっ 穴が見つかるっ

くせものーっ

タタタッ

へっ 天下の大泥棒どろろさまだいっ 三億円をとりにきたんだぞっ さあこい

おのれっ

どろろ…
なぜここへきた……
ばかなやつだ……
縁を切ったのに……

おまえが生きているあいだに 一度は女のなりをさせたかった

うるせーッ
今度 女だなんていったらウンコぶっつけるぜ

おっ

あの声はっ

フフフ……

おまえのつれだったな　うすぎたない　チビ助が

しのびこんできたのでな……いまためし斬りにしようとしていたところだ

やっ　あにきっ

おまえはこいつとふたりでたくらんでわざとここへやってきたのだろう？

フフフ　仕官したいなどと心にもないうそをいってもわかるぞ

もし本心ならこのチビ助をいまここで斬れるか

どうだ？　それともどろをはいてここへきたわけを白状するか？

こいつを斬り捨てればおれを信用するか？

ああしてやろう　だが斬れなければきさまも死刑だ

妖怪めっ たばになって くっついて 現れやがった

あにき!!

かくごしろっ

おれが斬りたいと
いったのは
こっちのほうだ

こいつが……

フー

おやじに
とっついて…

おれから
四十八か所を
うばった

キイ

化けものの
かたわれかっ

からだを
返せっ!!

思い知ったかっ

ガァーアーァ

うわあ……

うう〜〜〜ッ

あにきっ

感謝感激

いまだっ!!
みんなのりこめっ

門をあけて外の連中を入れろっ!

すくなくとも
五　六ぴきの妖怪は
しとめたぜ

ざまみろィ さむらいども！
ウオー
ウオー
勝ったぞ!!
おまえさんたち……とっととここを出ていきな いますぐにだっ 農民に八つざきにされねえうちに消えうせるんだ！
う……百鬼丸…おぼえておれ……この父にむかって！
いきましょう あなた…… あの子をうらむ権利なんか私たちにはありませんわ
あにき…まァ どうやら終わったぜ
苦しかったかどろろ
フン こんなことぐらいへとも思わねえ 天下の大泥棒にゃァ役不足ってもんさ

やれやれっ やっちまえ やっちまえっ

さむらいの大将はもう ひっくりかえって のびてるぞっ

う…… ……

やいっ さっきは よくも

グサ

さア 大将 この刀がほしいだろ とれよ とって おいらを斬ってみろ

おのれっ

ウ…… ウヌ…

ヘッヘ ○・五秒の ぬきうちと ござい

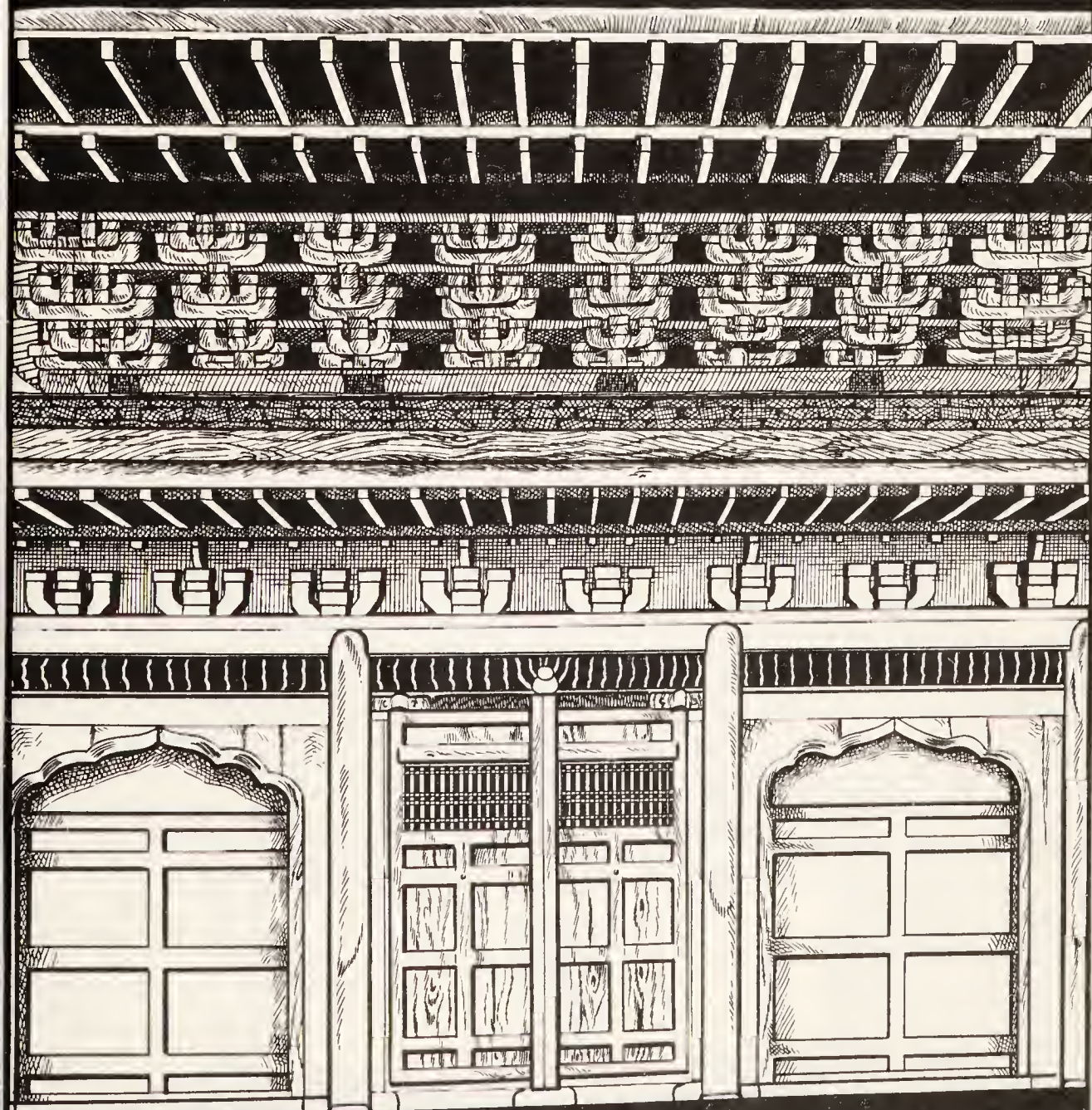
あにき……

聞きな
天下の大泥棒に なりたいエネルギー があるなら……
それを 権力との 戦いにとっておけ
おまえは死んだ気で 農民たちといっしょに戦い抜け それがおまえのいく道さ
えっ
もともと おまえのおやじの 火袋は農民だった おまえには 農民の気持ちが わかるはずだ
さあ これはおまえの ほしがってた刀だ
やろう
おれは また 魔物をさがして 歩くさ……
おまえは おまえの道を いけ おれは おれの別の道 をいく
完全な からだになったら また会おう
元気でな
てやんでェーっ はくじょう者ッ おいらの気持ちも 知らねえで…… ヘソかんで くたばっちまえーッ
年ごろになったら もうすこし女っぽい ことばを使えよな どろろ……
ワァー

どろろ
昭和42年 8 月27日号～昭和43年 7 月22日号　少年サンデー
昭和44年 5 月号～10月号　冒険王
連載

百鬼丸は
それから
どこへいったのか
ついに
だれにも
わからなかった

あの四十八体の
彫刻をひめた地獄堂は
さらに五十年ののち
戦火のために
焼けてしまった
ということである

〔どろろ ④〕 完

級のドラマが、やりきれない暗さを露呈しました。そのうえ、「まいまいおんばの巻」あたりから、生ぐささが加わりました。少年週刊誌の漫画としては、マイナスの要素が多くなってきました。

そして、まずいことに「ノーマン」の新連載が始まったせいもあって、「どろろ」への意欲も半減して、編集部の要請で、大急ぎで大団円にしなければなりませんでした。

本当は、百鬼丸が四十八体の魔物とたたかうエピソードを残らず出したかったのですが、滑稽にも、残った魔物を全部いっしょくたにした〝ぬえ〟などという怪獣を出したりして、あっさりかたづけてしまったのです。

テレビの「どろろ」は、パイロット・フィルムを見るかぎり、すばらしいカラーでみごとなアニメでしたが、予算の関係で白黒の本編になってしまったことが、かえすがえすも残念でした。演出は杉井ギサブロー氏で、音楽の冨田勲氏が最高の曲をつけてくれたのです。

これは、カルピスのアニメ劇場の第一回めの提供です。しかし、視聴率がよくなかったために、二十六回で打ち切られました。

「どろろ」というタイトルがなぜ生まれたかというと、ぼくの子どもが、どろぼうのことを片言で〝どろろう〟といったことからできたのです。

ところで、おかしなことにアメリカの日本漫画のファンがこの「どろろ」が大好きで、ぼくの会った何人かの青年は、手塚漫画でいちばん好きだといってくれましたし、このあいだ行ったサンジエゴの漫画大会で、ぼくにサインをたのんだ娘などは、百鬼丸の絵をかいてやったら、本当に涙をうかべて「**I love him!**」というのです。うれしいけど、おかしなものですね。

# あとがき

手塚治虫

あちこちにかいたことですが、ぼくは人一倍負けん気が強く、たとえば漫画でも、ある作家が一つのユニークなヒットをとばすと、おれだっておれなりにかけるんだぞ、という気持ちで同じジャンルのものに手を出す、おかしなくせがあります。

というわけで、「どろろ」は、水木しげる氏の一連の妖怪もののヒットと、それに続く妖怪ものブームにあやかって(?)作り上げた、いうなれば、きわものです。

しかし、最初の十回ばかりは、ぼくも本心からこの作品にのってしまったのです。珍しく時代もの、それも中世を舞台にした因果応報もの、ということが意欲をかき立てました。主人公の二人に自分ながら惚れぬいたのも、めったにないことでした。六、七回めのあたりには折りこみ口絵もはいり、それには水木氏ばりに、登場妖怪たちをずらりとならべたりしました。

しかし、この物語も回を追うにしたがってムードが暗くなりました。悲惨な戦国の世の被搾取階

あなたは、この〝手塚治虫漫画全集〟を読んで、どんな感想をお持ちになりましたか。

編集部では、この手塚先生の全集について、読者の方たちのご意見をお待ちしています。

手塚先生の作品で、読みたいもの、いちばん好きなもの等、ご希望がありましたら、「読後の感想」と合わせて、左記のところあてに、どしどしお知らせください。

東京都文京区音羽二―一二―二一
〈郵便番号一一二―八〇〇一〉
講談社　週刊少年マガジン編集部

手塚治虫漫画全集 150

どろろ④

一九八一年　六月二十日　第一刷発行
二〇〇四年　一月二十二日　第十刷発行
定価はカバーに表示してあります。

著者　手塚治虫
発行者　五十嵐隆夫
発行所　株式会社　講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一
郵便番号　一一二―八〇〇一
電話　編集部（03）五三九五―三四五九
販売部（03）五三九五―三六〇八
印刷所　慶昌堂印刷株式会社
製本所　株式会社　国宝社

講談社

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。電話（03）五三九五―三六〇三
なお、この本についてのお問い合わせは、週刊少年マガジン編集部宛にお願いいたします。



ISBN4-06-108750-9　Printed in Japan

## 読者の皆さまへ

「手塚治虫漫画全集」の作品の中には、アフリカの黒人や、東南アジアの人々をはじめ多くの外国人の姿が出てきます。それらの絵の一部は、いかにも未開発国当時の姿だったり、過去の時代を誇張していて、現在の状況とは大きな違いがあります。最近、このような描き方は黒人や一部の外国人に対する人種差別であるという指摘がなされております。こうした絵に不快感を覚え、侮辱されていると感じる人がいる以上、私たちはその声に真剣に耳を傾けなければならないと思います。

しかしながら、人々の特徴を誇張してパロディー化するということは、漫画のユーモアの最も重要な手法のひとつです。手塚作品では特にそれが顕著で、多くの国の人がパロディー化の対象になっています。また作者は人間に限らず、動植物の世界から想像の世界のものたちまでもユーモアたっぷりにキャラクター化しています。それは作者の自画像でさえ例外ではなく、彼の鼻は実際よりも数倍大きく描かれています。また作者はつねに文明と非文明、先進国と発展途上国、権力者と弱者、金持ちと貧者、健常者と障害者など、すべての憎悪と対立は悪であるという信念を持ちつづけた人で、物語の底には強い「人間愛」が流れています。

私たちが今あえてこの「手塚治虫漫画全集」を刊行しつづけるのは、作者がすでに故人で作品の改訂が不可能であることと、第三者が故人の作品に手を加えることは、著作者人格権上の問題もさることながら、当該問題を考えてゆくうえでも決して適切な処置とは思えないこと、加えて私たちには日本の文化遺産と評価される作品を守ってゆく責務があると考えるからです。もとより私たちは地球上のあらゆる差別に反対し、差別が無くなるよう努めてまいります。それが出版に携わる者の責任であると考えます。読者の皆さまも、この手塚作品に接するのを契機に、さまざまな差別が存在している事実を認識し、この問題への理解を深めてくださいますようお願いいたします。

手塚プロダクション／講談社

《**著者紹介**》本名，治。1928年11月3日，大阪府豊中市生まれ。大阪大学医学専門部卒業。医学博士。1946年「マァチャンの日記帳」でデビュー。1947年「新宝島」が大ヒットする。以来，日本のストーリー漫画の確立に尽くす。また，アニメーションの世界でも，大きな業績を残す。代表作に「鉄腕アトム」をはじめ「リボンの騎士」「火の鳥」「ジャングル大帝」「ブラック・ジャック」「ブッダ」「アドルフに告ぐ」等がある。

講談社
定価:本体563円
(税別)



雑誌 41923-50 ISBN4-06-108750-9 C9979 ¥563E (3)